

いきいき寺子屋通信

ごあいさつ

地域医療推進センター
センター長 梶井 英治



地域医療推進センターは、平成31年4月から設置され、当職をはじめ筑西市地域医療推進課の職員をもって構成されています。

センター事業のひとつ、「いきいき寺子屋」は平成31年1月にはじまり、これまでに計13回の開催を行ってきました。

本年度の「いきいき寺子屋」の開催については、新型コロナウイルス感染対策を念頭に、医学的知見を含め地域医療推進センターにおいて、慎重に協議をいたしました。

この結果、当寺子屋の特色を考えた場合、座談会等の密集・密接を伴うものであることから、感染防止の観点より、本年度の開催は見送ることと決定しました。

つきましては、昨年度までに開催した内容の振り返りを今一度したいと考え、『いきいき寺子屋通信』と題して、皆さまにお届けします。

地域医療推進センターとは

この地域の1次・2次医療機関、保健、介護、福祉関係者の連携調整など、地域医療の充実を図るために必要な事業を進めていく機関であり、平成31年4月に設置されました。

次回号のお知らせ！

次回は、『茨城県西部メディカルセンター 病院長と語ろう Vol.2～西部メディカルセンターの役割・機能、病院へのかかりかた～』についてお話しします。

なお、令和元年8月以降に開催された内容は、『いきいき寺子屋通信』で順次掲載を予定しています。

いきいき寺子屋とは

地域医療推進センターの「地域医療を守り育てることへの住民の理解と意識の醸成」のひとつとし、住民と医療福祉関係者、行政の意見交換の場として開催しています。



「いきいき寺子屋」は、西部メディカルセンターと筑西診療所に勤務する医師等が講師を務め、毎回様々なテーマで健康についての講演を行いました。

開催テーマ・日時・場所・人数

全7中学校地区共通テーマとして、「茨城県西部メディカルセンター 病院長と語ろう」と題して開催し、178名の方が参加されました。

	日 時	場 所	参加者
平成31年	1月30日	アルテリオ	17
	2月20日	関城保健センター	19
	3月20日	中公民館	37
	4月17日	明野公民館	14
令和元年	5月15日	川島公民館	48
	6月19日	協和公民館	9
	7月17日	大田公民館	34

参加者から様々な
質問が出ました！

Q. 「地域医療連携登録」とは？

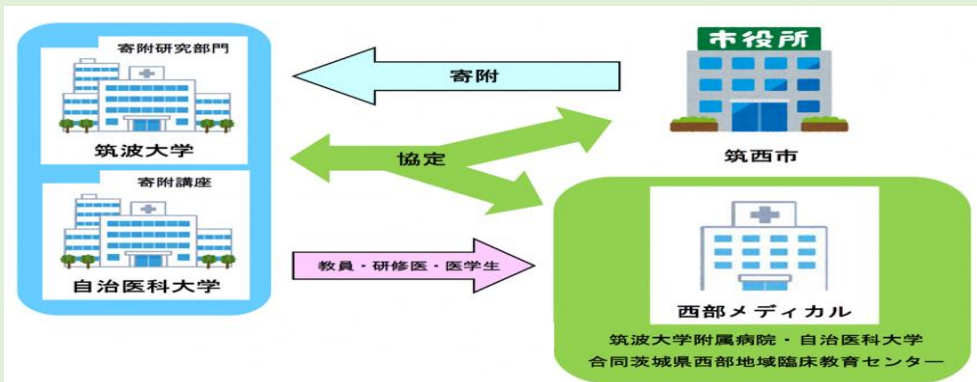
A. 地域の医療機関との円滑な連携を図るため、各医療機関と地域医療連携登録を行い、2人主治医制を目指しています。
西部メディカルセンターで治療の終了した患者さんが退院・逆紹介（西部メディカル⇒医療機関への紹介）した際、住み慣れた地域で長く生活するために支える制度です。
現在72の医療機関と登録を結んでいます。

Q. 「2人主治医制」とは？

A. 患者さん1人に対し、かかりつけ医が「第1の主治医」、西部メディカルセンターの医師が「第2の主治医」として、医師同士が互いに連携しながら、共同で継続的に治療を行うことです。
そして、患者さんの生活に寄り添った健康づくりや病気予防に取り組みます。

Q. 「医師確保」とは？

A. 西部メディカルセンターに筑波大学と自治医科大学合同の「茨城県西部地域臨床教育センター」を設置しました。
センターの設置により、医師の確保が見込めるほか、両大学の特徴ある医療教育を相互に取り入れ、医学生に豊富な臨床研修を行える利点があります。
現在、教員は筑波大学6名、自治医科大学3名、計9名が配置されています。



地域医療連携の拠点
茨城県西部メディカルセンター

Q. 「地域医療の推進」については？

A. 西部メディカルセンターは地域医療連携の拠点として予防医学を重視しています。
その活動の拠点として、2019年4月に「筑波大学ヘルスサービス開発研究センター地域予防医学部門筑西市研究室」を設置しました。
生活習慣病の疫学と予防研究の推進、保健医療問題を俯瞰的に捉え全人的な視野を持って医療を実践する医師の養成、臨床・予防部門を支援する取組みを行っています。

Q. 「在宅医療」の体制づくりは？

A. 強化型在宅療養支援診療所グループが誕生しました。現在3診療所（筑西診療所、宮田医院、河上医院）で24時間365日体制の訪問診療の連携体制の構築を目指しています。

「病院づくり＝地域医療づくり＝地域づくり」

病院づくりは地域医療づくりであり、地域（まち）づくりです。住民のみなさんも、ぜひ一緒に参加して、考えていきましょう。